

とぴくす ● アンケートの結果報告



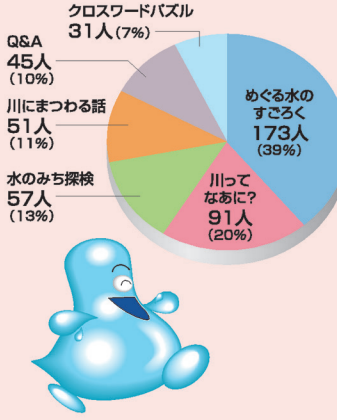
それは、次のような理由があるんだ。  
大きな洪水がおこると、上流から流木などが流れてくる。それが、橋のらんかんにひっかかる。そうすると、そこでいったん水の流れがせきとめられ、まわりの土地に水があふれてしまう。さらに上流からどんどん水がおしよせてくると、その力で橋がこわれてしまふ。すると、そこでせきとめられていた水が一気に流れ出し、下流にも被害が出る…。この

**とぴくす**  
あれ？らんかんがない！  
ふしぎな橋を板倉町で発見！  
板倉町で見つけた、ふしぎな橋。  
町の南を、西から東にむかって流れる谷田川が、おとなりの埼玉県北川辺町とのさかいに出るあたり。そこに、この「合ノ川橋」はある。  
写真でわかるように、ふつうの橋とちがって、らんかん(橋の両がわにつけられた手すり)がないね。これは「沈下橋」といって、大きな洪水のとき、川の中に沈むようにつくられた橋なんだ。別名「潜水橋」とか「もぐり橋」ともいうよ。  
でも、なぜ「らんかん」がないんだらう？ それ、なぜ川の中に沈むようにつくられているんだらう？  
それは、次のような理由があるんだ。  
大きな洪水がおこると、上流から流木などが流れてくる。それが、橋のらんかんにひっかかる。そうすると、そこでいったん水の流れがせきとめられ、まわりの土地に水があふれてしまう。さらに上流からどんどん水がおしよせてくると、その力で橋がこわれてしまふ。すると、そこでせきとめられていた水が一気に流れ出し、下流にも被害が出る…。この

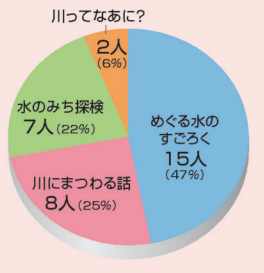
ようなことをふせぐために、あらかじめ橋にらんかんをつけなくて、洪水のとき川の中に沈むようにする、というわけなんだ。  
つまり、沈下橋は「自然をおさえつけるのではなく、自然と折りあって生きていこう」というわかしの人の知恵なんだね。  
そして、もうひとつ。沈下橋は、らんかんがないために(抵抗が少ないので)洪水でもこわれにくく、もしこわれても修理がかんたんという特長がある。  
このような沈下橋は、むかしは日本じゅう、いたるところにあった。でも、だんだん数がへって、群馬県でも、ほとんど見かけられない。  
いま、沈下橋が残っているところとしては、高知県の四万十川が有名。60カ所近くあるといわれる。それから関東地方でも、埼玉県の荒川や茨城県の久慈川でとところどころ見ることができよう。  
沈下橋は、ムラとムラをつなぐたいせつな橋で、人びとの暮らしをささえ、いこいの場になり、ときには子どもたちの遊び場にもなっている。  
そういうわけで、この「合ノ川橋」は、文化庁の「農水産業に関する文化的景観」のひとつに選ばれているんだ。



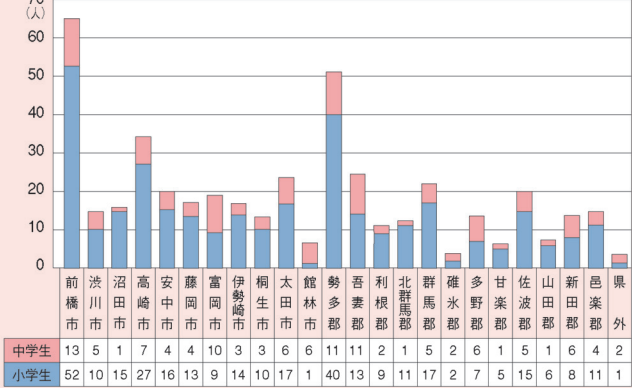
■おもしろかった、勉強になった記事は？



■おもしろくなかった記事は？



■「川の子ども新聞」に感想や意見を送ってくれた人数(市郡別)



「川の子ども新聞」について、たくさんの方たちがおたよりをくれて、ポトムもうれしーっ！今回は、2003年冬号(12月発行)に寄せられた声をまとめてしようかいするね！  
おもしろかった記事でいちばん多かったのは思ったとおり「すごろく」で173人！家族みんなで楽しくあそんでくれたみたい。「勉強にもなった」と書いてくれた人が多くて、ポトムもうれしかったなあ。  
2ばんめに多かったのは「川ってなあに？」とくに中学生に人気があった。「学校で習ったはずだけど、この新聞を読んでよくわかった」というような声がたくさんあったよ。  
Q&Aがおもしろかったという友だちもいた。「油を流しにすてはいけない」という身近な話題に、自分の家ではどうしているか、おかささんにたずねたり、それから「おかささんに教えてあげた」など、さっそく行動した人が多かったみたいだね。  
そのほか「おもしろくなかった記事」を教えた

くれた友だちもいたよ。「すごろく」15人「川にまつわる話」8人、「水のみち探検」7人、「川ってなあに？」2人だ。  
文字が多いとか、ちよつと内容がむずかしいという声もあった。できるだけわかりやすく説明するように、がんばるからね。また「川ってなあに？」でとり上げられている事例が県内のことなのでわかりやすかったとか、世界のダムが知りたいなんていう意見もあったよ。  
たくさん感想や意見を送ってくれて、どうもありがとう。もっともっと楽しく、みんなのために「川の子ども新聞」していきたい。これからも、いろいろな声をどんどん送ってね。



いつも「川の子ども新聞」に感想や意見を送ってくれてありがとう。